

故○○君の合同葬に当たり謹んで君のご霊前に弔辞を捧げます。  
君と私の最初の出会いには終戦直後、たしか昭和○年の夏○○○本社労政部だったと思えます。未だ戦塵を完全に拭いきれない風貌で、重戦車のような重みを感じさせる偉丈夫が君でした。

それから十数年、○○○時代は君は○○製作所、鋼管製作所、製鋼所と転ぜられ、私は○○製陶所、本社、鋼管製作所、○○○製鉄所と転じましたので勤務地は異にしましたが、共に労務畑を歩みましたので交わりは誠に深く、戦後動乱の労務情勢の中で共に苦しみ共に切磋した想い出は本当に尽きません。

昭和○年○○○から分離独立するに際し、君は選ばれてその人事部長となられ、私も昭和○年君の後を追うて○○○に赴任し、それ以来、今日迄影のに浴うが如き関係で殆ど同じ道を歩んで参りました。○○○から通算すれば実に三十有余年になります。

君は○○高等学校から○○○大学経済学部を卒業されたのですが、学生時代は柔道の猛者として知られ、中学校、高等学校では何れも主将として活躍され、その黄金時代を築かれたと聞いております。

君は資性豪胆迫らざるものがあり不屈の精神の持主であると共に、半面細かな神経をもち人情に厚くあくまでも誠実を尽す人でした。

君との数々の想い出の中で、楽しい想い出の一つとして○○○バレエボールクラブの創設があります。私がクラブ長、君が副クラブ長となり、間もなく「東海の地に○○○チームあり」と認められ、遂に日本リーグのメンバーとして活躍した。○○○バレエボールクラブこそは、君が手塩にかけて育て上げられた所産でありました。今その選手達が成長して会社の枢要な地位に就いていることも君のひそかな慰めであったであらう。

昭和○年○月○○○の社長に就任されてから茲に一年有余、必ずしも長い年月とはいえませんが、君は日夜業績の改善に腐心され、君の全力を投入されましたために社業はとみに改善され、昨今では全く軌道に乗り安定した操業を続け得るようになったのであります。これも、ひとえに君が功績といわねばなりません。君はさぞかしご無念のことでしたでしょう。君の心中を思うとき、私は断腸の思いが致します。○○○で同じ道を歩み、最も長く最も親しくお交際願いました君を失い、後なるべきものが先なるべきものが後となつて今君の御霊前に弔辞を読まなくてはならないとは、私の痛恨これに過ぎるものはありません。

ああ悲しい哉かな。君とは幽明鏡を異にすることになりましたが、この上は君のご遺志を継ぎ○○○を更に発展させることこそ残されたものの責務であり、君の御霊に応える道であるかと存じます。

○○○さん、安らかに眠って下さい。そして我々をいつまでも見守ってください。

平成○年○月○日

株式会社 ○○○○

取締役会長 ○○○○